



くすっ子

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

屈巢小学校より
令和2年5月7日
No. 2

疫病退散を願う

4月8日の始業式・入学式を私たち教職員は心待ちにしていました。ところが、新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えず、3月からの臨時休校は延長を余儀なくされ、次の5月7日の再開を今度こそはという思いで準備をしていたところ、またしても再度の休校延長となりました。そのような中でも、1年生の入学式は感染症予防・安全・健康面を最優先に規模を縮小しながらも挙行することができました。ご協力ありがとうございました。

さて、「風薫る五月」、屈巢小の校舎3階から見える、秩父連山、赤城山、日光方面の山々等木々の緑も濃さを増し初夏の訪れを実感する季節となります。5月といえば、一昨日は「こどもの日」でした。「こどもの日」の趣旨は『国民の祝日に関する法律』によると、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」とあります。近年は、「人格を重んじ、幸福をはかる」どころか、保護者からの「虐待」の報道が絶えません。また、「非常事態」の状況下により在宅勤務が促進され、家族で触れ合う時間が増える一方で、ストレスによる「虐待」も増加するケースやささいなことから夫婦げんかになり、それを見た子どもが傷つくというケースもあるようです。本来、学校で勉強したり運動したり、放課後遊んだり習い事をしたりしているはずの子どもたちも相当我慢を強いられています。新型コロナウイルスの感染が終息し、一日でも早く学校が再開することを願うばかりです。

「こどもの日」といえば、鯉のぼりを揚げたり、鎧兜や金太郎の人形を飾ったり、また、菖蒲湯につかったり、柏餅やちまきを食べたりします。いずれも、邪気を払い、子どもの健やかな成長を願うための風習です。昔、病気は「もののけ」（悪霊）が憑りついて罹るものと考えられていました。治療は当然、修験者等による加持祈祷となります。ちなみに、日本各地の神社で行われているお祭りは、五穀豊穡の他に疫病退散の意味が込められています。鯉のぼりの一番上についている色とりどりの「吹き流し」には、「もののけ」がつかないようにする「魔除け」の意味があるそうです。当たり前のことも、ふと疑問に思っ調べてみると新しい発見があります。この「魔除け」の効果を期待したいところです。

私たち教職員も子どもの成長に関わる職業として責任をもち、学校再開に向けて気持ちを引き締めて入念に準備をしておりますので、各ご家庭でも健康管理と学習課題の取組を引き続きお願いいたします。本校でも児童には病気に負けない体力を付け、滝をも昇る鯉のように「明るく元気な子」を育成してまいります。

最後に蛇足ですが、日本には疫病（流行病）を退散する「妖怪」がいるそうです。その名を「アマビエ」と言って、人魚のような姿をしていて鳥のようなくちばしが特徴です。最新の人類の英知の集結と古来の伝統・伝説の融合によって「疫病退散」を切に願います。

（校長 橋本 浩）